AYA 世代のがん発生率、42 年間で 3 割増

AYA 世代（15～39 歳）のがんは、通常のがん集団とは異なる点が多いが、その疫学的特徴と傾向についてのデータは不足している。今回、米国・Penn State Cancer Institute の Alyssa R. Scott 氏らが、米国人口ベースの後ろ向き横断研究を実施したところ、AYA 世代におけるがんの発生率は 42 年間で 29.6%増加しており、腎がんが最も高い増加率だった。JAMA Network Open 誌 2020 年 12 月 1 日号の報告。

研究者らは、1973 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日の Surveillance, Epidemiology, and End Results（SEER）データベースのレジストリデータ（SEER 9、SEER 18）を使用。最初の分析は、2019 年 1 月 1 日～8 月 31 日に実施された。

主な結果は以下のとおり。

・本研究は、1973～2015 年に診断された合計 49 万 7,452 例の AYA 世代がん患者を対象とし、女性 29 万 3,848 例（59.1%）、男性 20 万 3,604 例（40.9%）で、79.9%が白人だった。

・がんと診断された患者の割合は、診断時の年齢とともに増加した（15～19 歳：3 万 1,645 例［6.4%］、35～39 歳：19 万 7,030 例［39.6%］）。

・15～19 歳を除くすべての年齢サブグループで、男性と比較して女性のほうがより多くがんと診断されていた（1 万 4,800 例［46.8%］vs. 1 万 6,845 例［53.2%］）。

・女性の AYA 世代では、7 万 2,564 例（24.7%）が乳がん、4 万 8,865 例（16.6%）が甲状腺がん、3 万 3,828 例（11.5%）が子宮頸部および子宮がんと診断されていた。

・男性の AYA 世代では、3 万 7,597 例（18.5%）が精巣がん、2 万 850 例（10.2%）が悪性黒色腫、1 万 9,532 例（9.6%）が非ホジキンリンパ腫と診断されていた。

・AYA 世代のがんの発生率は、1973～2015 年の 42 年間で 29.6%増加し、10 万人当たりの平均年間変化率（APC）は 0.537（95%信頼区間[CI]：0.426～0.648、p＜0.001）だった。腎臓がんにおける APC は、男性で 3.572（95%CI：3.049～4.097、p＜0.001）、女性で 3.632（3.105～4.162、p＜0.001）と、双方で最大の増加率となった。

著者らは、「AYA 世代のがんは独特の疫学的パターンを持ち、健康への懸念が高まっている。1973 年から 2015 年にかけて多くのがんサブタイプの発生率が増加していた。本結果は、この集団における明らかな健康上の懸念を理解し、対処するために重要だ」と結論している。

当コンテンツは、株式会社ケアネットの監修により、がんに関連する重要論文を選別し、それらを簡潔に要約したニュースレターです。当社の見解を述べるものではなく、承認外使用を推奨するものではございません。内容の詳細については元文献・元ニュースを、製品に関する情報は各製品の最新の添付文書をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、当コンテンツに掲載されている記事等に係る所有権、著作権その他一切の権利は、ニプロ株式会社、株式会社ケアネット、コンテンツ制作者等の著作権者が保有しています。

公開日 2020/12/22

＜関連文献＞

Scott AR, et al. JAMA Netw Open. 2020;3:e2027738.

https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33258907/

当コンテンツは、株式会社ケアネットの監修により、がんに関連する重要論文を選別し、それらを簡潔に要約したニュースレターです。当社の見解を述べるものではなく、承認外使用を推奨するものではございません。内容の詳細については元文献・元ニュースを、製品に関する情報は各製品の最新の添付文書をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、当コンテンツに掲載されている記事等に係る所有権、著作権その他一切の権利は、ニプロ株式会社、株式会社ケアネット、コンテンツ制作者等の著作権者が保有しています。

公開日 2020/12/22